

設立趣意書

今般の高大接続改革に代表される教育改革は戦後最大の大改革と呼ばれています。

これから日本が直面する、超高齢化超少子化社会、グローバル社会、人工知能の発展…

人口構成の大変動によって社会の在り方も激変し、テクノロジーによって生活も産業も変貌し、グローバル化によって多文化の中で共生せざるを得なくなります。これらは今の大人たちにも予想のつかない変化です。

したがって、これからの教育は、大人が体験したことのない、予想もし難い社会を迎える子どもの能力を、どのように育むかが最大の焦点になってきます。そのために、今回の教育改革では主体的な学び、対話的な学び、協働的な学び、深い学び、といった、「アクティブ・ラーニング」の実現が必要であるとされています。主体的かつ能動的な学びができるアクティブ・ラーナーを社会に送り出すこと、つまり「何を教えるか」ではなく「どのように学ぶか」が、教育に携わる教職員、それをサポートする人たちの視点の転換が必要になって参りました。

しかし、これらの視点の転換は両刃の剣となりうること、そもそもその実現に多くの困難が予想されることが、多くの関係者によって指摘されていますが、そういった懸念を乗り越えて、この改革は成功させなくてはなりません。

そのために、私たちは、本学会の設立を企図しました。

日本アクティブ・ラーニング学会は、学校教育にかかわる教員・研究者・企業が研究・実践を通して、広くその成果を共有し、普及・啓発活動をもとに、教育の質的向上に資するために設立いたします。

私たちは、高大接続改革・学習指導要領改訂が進む中で、アクティブ・ラーニングの研究とその成果を生かし、あまねくアクティブ・ラーニングが実現するよう研究者、実践者、企業へ協力・参集を募るものです。それぞれが立場や背景によって意見の違いもあるかもしれませんが、時にはクリティカルにアクティブ・ラーニングをとらえることも必要になってくるでしょう。また、ICT機器の活用、国際バカロレアなど新しい制度への取り組み、教員研修、地域や企業など学校外との連携など、教室の範囲を超えた広い視野が必要になります。

そういった現状に対応するために、本学会の一つの特徴としては、研究者と実践者、さまざまな校種、現場の教員と学校経営側（管理職、職員）、教育界と実業界（一般企業／教育支援企業）と立場の違う関係者がその垣根を越えて、情報交流・共有、共同研究、討論、また、知見の活用を進めていくことです。そして教育改革の推進力となり、特に初中等教育の教員の方々に発表や連携の機会を多く提供したいと考えています。

そして、教育の世界ではアクティブ・ラーニングが当たり前のこととなり、アクティブ・ラーニングの普及・推進といった本学会の目的を達成し、2030年をめどに本学会は解散することを目指します。

平成 28 年 9 月 12 日

発起人代表

米田 謙三 羽衣学園中学・高等学校 教諭

荒木 貴之 武蔵野大学特任教授 千代田女子学園中学校・高等学校副校長

白戸 治久 英語運用能力評価協会 事務局長

発起人 (50音順)

赤堀 侃司 日本教育情報振興会 会長 東京工業大学 名誉教授
浅野 幸彦 筑波学院大学 講師
安藤 昇 佐野日本大学中等教育・高等学校 教諭
石川 一郎 前かえつ有明中学・高校 校長
一円 尚 日本橋女学館高等学校・開智日本橋学園中学校校長
稲井 達也 日本女子体育大学 教授
大重 史朗 中央学院大学・東京都市大学 非常勤講師
岡田 紘子 お茶の水女子大学附属小学校 教諭
金成 泰宏 日本私立短期大学協会
唐澤 博 浦和実業中学・高等学校 教諭
佐藤 和紀 東京都杉並区立高井戸東小学校 主任教諭
東北大学大学院情報科学研究科 博士課程
関東学院大学 高等教育研究・開発センター 専任講師
杉原 亨 桜美林大学 教授
高橋 真義 朝日出版社 営業部長
津金 秀和 朝日出版社 営業部長
辻 誠一 関西創価高等学校 教諭
椿 仁三千 松戸市立松戸高等学校 教諭
畑中 潤 東洋館出版社 編集者
時川 郁夫 森村学園初等部 教諭
原 克彦 目白大学 教授
福本 徹 国立教育政策研究所 総括研究官
細水 保宏 明星学園教育支援室長 明星大学特任教授
溝畑 保之 大阪府立鳳高等学校 教諭

吉田 和夫
米田 敬子
鷲北 貴史

賛同人 (50音順)

浅谷 治希
池田 修
乾 武司
井上 志音
江藤 由布

川端 元維
後藤 健夫
品田 健
反田 任
高知尾 佳孝
竹内 幸哉
中村 孝一
御手洗 明佳
武藤 哲司
山瀬 加奈

顧問
鈴木 寛

玉川大学 客員教授
文教大学生活科学研究所
高崎経済大学 講師
株式会社 LOUPE 代表取締役社長
京都橘大学教授
近畿大学附属高等学校・中学校 教諭
灘中学校・灘高等学校 教諭
近畿大学附属高等学校教諭
一般社団法人オーガニックラーニング代表理事
innovate with 代表
教育ジャーナリスト
元・桜丘中学高等学校 次世代教育開発担当参与
同志社中学校・高等学校 教諭 同志社大学文学部 講師
大学職員
河合塾講師
NPO 法人 eboard 代表理事
千葉大学アカデミック・リンク・センター 特任助教
ぐんま国際アカデミー中高等部 教諭
小松サマースクール実行委員会
東京大学・慶應義塾大学 教授



日本アクティブ・ラーニング学会 設立趣意書

今般の高大接続改革に代表される教育改革は戦後最大の大改革と呼ばれています。

これから日本が直面する、超高齢化超少子化社会、グローバル社会、人工知能の発展…

人口構成の大変動によって社会の在り方も激変し、テクノロジーによって生活も産業も変貌し、グローバル化によって多文化の中で共生せざるを得なくなります。これらは今の大人たちにも予想のつかない変化です。

したがって、これからの教育は、大人が体験したことのない、予想もし難い社会を迎える子どもの能力を、どのように育むかが最大の焦点になってきます。そのために、今回の教育改革では主体的な学び、対話的な学び、協働的な学び、深い学び、といった、「アクティブ・ラーニング」の実現が必要であるとされています。主体的かつ能動的な学びができるアクティブ・ラーナーを社会に送り出すこと、つまり「何を教えるか」ではなく「どのように学ぶか」が、教育に携わる教職員、それをサポートする人たちの視点の転換が必要になって参りました。

しかし、これらの視点の転換は両刃の剣となりうること、そもそもその実現に多くの困難が予想されることが、多くの関係者によって指摘されていますが、そういった懸念を乗り越えて、この改革は成功させなくてはなりません。

そのために、私たちは、本学会の設立を企図しました。

日本アクティブ・ラーニング学会は、学校教育にかかわる教員・研究者・企業が研究・実践を通して、広くその成果を共有し、普及・啓発活動をもとに、教育の質的向上に資するために設立いたします。

私たちは、高大接続改革・学習指導要領改訂が進む中で、アクティブ・ラーニングの研究とその成果を生かし、あまねくアクティブ・ラーニングが実現するよう研究者、実践者、企業へ協力・参集を募るものです。それぞれが立場や背景によって意見の違いもあるかもしれませんが、時にはクリティカルにアクティブ・ラーニングをとらえることも必要になってくるでしょう。また、ICT 機器の活用、国際バカロレアなど新しい制度への取り組み、教員研修、地域や企業など学校外との連携など、教室の範囲を超えた広い視野が必要になります。

そういった現状に対応するために、本学会の一つの特徴としては、研究者と実践者、さまざまな校種、現場の教員と学校経営側（管理職、職員）、教育界と実業界（一般企業／教育支援企業）と立場の違う関係者がその垣根を越えて、情報交流・共有、共同研究、討論、また、知見の活用を進めていくことです。そして教育改革の推進力となり、特に初中等教育の教員の方々に発表や連携の機会を多く提供したいと考えています。

そして、教育の世界ではアクティブ・ラーニングが当たり前のこととなり、アクティブ・ラーニングの普及・推進といった本学会の目的を達成し、2030年をめどに本学会は解散することを目指します。

平成 28 年 9 月 15 日

発起人代表

発起人代表

米田 謙三	羽衣学園中学・高等学校 教諭
荒木 貴之	武蔵野大学特任教授 千代田女学園中学校・高等学校副校長
白戸 治久	英語運用能力評価協会 事務局長

発起人 (50音順)

赤堀 侃司 日本教育情報振興会 会長
東京工業大学 名誉教授
浅野 幸彦 筑波学院大学 講師
安藤 昇 佐野日本大学中等教育・高等学校 教諭
石川 一郎 前かえつ有明中学・高校 校長
一円 尚 日本橋女学館高等学校
開智日本橋学園中学校校長
稲井 達也 日本女子体育大学 教授
大重 史朗 中央学院大学・東京都市大学 非常勤講師
岡田 紘子 お茶の水女子大学附属小学校 教諭
金成 泰宏 日本私立短期大学協会
唐澤 博 浦和実業中学・高等学校 教諭
佐藤 和紀 東京都杉並区立高井戸東小学校主任教諭
東北大学大学院情報科学研究科 博士課程
杉原 亨 関東学院大学高等教育研究・開発センター
専任講師
高橋 真義 桜美林大学 教授
津金 秀和 朝日出版社 営業部長
辻 誠一 関西創価高等学校 教諭
椿 仁三千 松戸市立松戸高等学校 教諭
難波 俊樹 ユーフォーブックス 編集者
畑中 潤 東洋館出版社 編集者
時川 郁夫 森村学園初等部 教諭
原 克彦 目白大学 教授
福本 徹 国立教育政策研究所 総括研究官
細水 保宏 明星学苑教育支援室長
明星大学特任教授

溝畑 保之 大阪府立鳳高等学校 教諭
吉田 和夫 玉川大学 客員教授
米田 敬子 文教大学生活科学研究所
驚北 貴史 高崎経済大学 講師

賛同人 (50音順)

浅谷 治希 株式会社 LOUPE 代表取締役社長
池田 修 京都橘大学教授
乾 武司 近畿大学附属高等学校・中学校 教諭
井上 志音 灘中学校・灘高等学校 教諭
江藤 由布 近畿大学附属高等学校教諭
一般社団法人オーガニックラーニング代
表理事
川端 元維 innovate with 代表
品田 健 元・桜丘中学高等学校 次世代教育開発
担当参与
反田 任 同志社中学校・高等学校 教諭
同志社大学文学部 講師
高知尾 佳孝 大学職員
竹内 幸哉 河合塾講師
中村 孝一 NPO 法人 eboard 代表理事
日野田 直彦 大阪府立箕面高等学校 校長
御手洗 明佳 千葉大学アカデミック・リンク・センター
特任助教
武藤 哲司 ぐんま国際アカデミー中高等部 教諭
山瀬 加奈 小松サマースクール実行委員会
顧問
鈴木 寛 東京大学教授・慶應義塾大学教授

発足記念シンポジウムのご案内 シンギュラリティはこわくない 人工知能をつかいこなすためのアクティブ・ラーニング

基調講演 講演者：中島秀之（東京大学 特任教授・はこだて未来大学名誉学長）
シンポジウム「人工知能をつかいこなすためのアクティブ・ラーニング」

登壇者：講演者＋学会設立メンバー

会場 千代田女学園中学校高等学校

日時 2016年11月3日（木）文化の日

9:00 開場

9:30-10:00 開会の辞 会長挨拶＋学会紹介

10:00-11:00 記念講演

11:00-11:45 シンポジウムと質疑応答

12:00-12:45 懇親会

参加費 3000円（会員無料） 小中高の先生対象事前割引 2000円 懇親会費 1500円

お申し込みは>>><http://kokucheese.com/event/index/426973/>

お問い合わせ先 学会事務局 e-mail：info@jals2030.net 学会 HP：<http://jals2030.net/>